

広範な共感が湧きだした！

5・27千葉みなと スト報告

日刊
動労千葉

1988.6.1
No. 2827

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二二七二〇七

5・27水2波

ストに決起して

木更津支部

外山 義章

五・一八千葉駅、五・二〇亀戸駅の第一波闘争が切り拓いた地平である、千葉駅頭を動労千葉の運動で埋めつくした全体への浸透化と、街頭宣伝がもたらした大衆の高揚、そして五・二〇亀戸駅における異常な弾圧体制を粉碎した決意と気迫を受け継ぎ、第二波闘争として私が起こったわけです。印象としては心地良い緊張感と集中力、自らの中の弱者を踏み越えた力量に感動を禁じえないところでは。

これは五・二七スト当日のあいさつの中でも訴えたことですが、第二波闘争がなぜに京葉線の中で闘い抜かれたのか？

私なりに解釈すれば、反動河野を中心とした悪質職制が日頃口にしてはいる、「京葉線はモデル地区であり、動労千葉や国労の組合員は置かない」とする暴言と不当性に対する、動労千葉からの痛烈なる批判であるとともに、京葉線に動労千葉の運動と組織を芽ぶかせ、真の国鉄労働運動を浸透

させるものとしての意味を含んでいると考えるところでありませぬ。

二七日以降、千葉みなと駅周辺の労働者を中心として、当日のストライキ理由をさまざま聞かれるわけですが、JR体制が持っている理不尽ありある不法不当性と運転保安無視の現状について訴えを継続する中から、広範な共感の波が湧き出ています。

私自身、強制配転と不当処分を絶対に許さず闘い抜くとともに、運転保安確立と原職奪還のためにより一層の奮闘をする決意であることを再度表明するものです。

又、当日千葉みなと駅というどこにあるかわからない駅まで結集していただいた全組合員・家族会・動労水戸をはじめとした総連合、支援の方、そして差し入れや檄布をはじめとした多大な御支援と御援助に、紙面を借りまして感謝申し上げます。

5・25狭山中央集會に参加

五月二五日、東京・代々木公園において、石川一雄氏不当逮捕から二五ヶ年糾弾、狭山再審要求、中央総決起集會が開催された。

集會では、全国から結集した部落解放同盟員と各労働組合の参加者全員が石川一雄氏奪還を誓った。動労千葉青年部は、この日、二〇〇〇枚のピラをまききつた。「俺たちの所にも物販が来たよ」と声をかけられたり「〇〇〇枚ほしい」といった反応が返ってきて、ストが圧倒的に注目と支持されていることを実感した。会場には動労水戸、連帯高崎の仲間たちの姿もみえ、動労旗がたなびいていた。われわれは、千葉県連の隊列に入り、集會とデモを貫徹した。

